

SDGs未来都市推進実施計画の施策・事業の実施状況

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次総合計画計画書記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・継続・改善・縮減・廃止等の見込み	担当課
■環境	①再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成	(1) 森里川海の連携による環境保全	1	資源ごみ常設ステーションの整備		地域主体で資源ごみの常設ステーションを設置する。	令和元年度以前から実施	4ヶ所の地域づくり協議会において常設ステーションが整備され、資源ごみ回収に取り組まれている。剪定枝等で民間事業者による新規に展開が可能か協議を進める。	継続	生活環境課
			2	サステナビリティボンド（ESG債）の購入を通じた国連持続可能な開発目標（SDGs）への貢献		基金運用において、安全性や運用効率を確保しながら、長期運用が可能な資金でサステナビリティボンド（環境及び社会貢献債）等、SDGs債を購入する。	令和元年度以前から実施	ソーシャルボンド（社会貢献債）購入 ・第133回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券購入2億円（令和元年） ・第54回国際協力機構債券購入1億円（令和2年）	令和6年度以降、さらに厳しくなる財政運営や、昨今の金融情勢を鑑み、新規の債券投資による資金運用は行わない。	会計課
			3	地球温暖化対策実行計画（区域施策編）推進事業		地球温暖化を抑止には、省エネ対策や再エネ導入などによる脱炭素化が必要であり、市民や事業所との連携を図りながら、計画的に着実な取り組みを進める必要がある。	令和5年度から実施	令和4年度の温室効果ガス排出量の状況を調査して、年度末までに区域施策編と事務事業編の達成状況を公表する。同計画の施策や目標の見直し等に活用することで、2030年の中間目標の達成と2050年の温室効果ガス実質ゼロを目指す。市民と事業所に理解を求め、実行してもらうための取組みを検討する必要がある。	継続	エコビレッジ推進課
			4	海岸漂着物対策推進事業		海ゴミや海岸漂着物の発生抑制のため、市民に対して普及啓発を行う。	令和2年度から実施	出前講座やイベント出展時において普及啓発を実施。 新規取組として、ゴミ拾いを競技にした「スポGOMI」を南砺市環境保健協議会との共催で実施。好評であり次年度の実施を前向きに検討する。 R5実績：スポゴミ 18チーム 81名 普及啓発 10回（ブース展示4、出前講座6）	継続	エコビレッジ推進課
			5	高齢者世帯デマンドごみ収集		—	未定	10ヶ所の地域づくり協議会において、高齢者への支援を目的としてごみ出し支援に取り組まれている。民間事業者による直接収集は、事業者の人員・設備体制の確保等について検討を要する。	継続	生活環境課
			6	食品ロスゼロ運動		食品ロス削減を推進するため、市民に対して広く普及啓発を行う。	令和2年度から実施	出前講座やイベント出展時において普及啓発を実施。 地域主体のフードドライブ活動の普及拡大のため、ノウハウの提供や必要備品の貸出などの支援事業を、南砺市環境保健協議会との共催で実施。地道な取り組みを今後も継続する。 R5実績：フードドライブ5回、啓発5回	継続	エコビレッジ推進課
		(2) 再生可能エネルギーの利活用	7	木質ペレットボイラーの導入拡大推進		地球温暖化対策、地域資源の有効活用による持続可能な循環型社会の形成に向けて、木質ペレットボイラーの市内導入拡大を推進する。	令和元年度以前から実施	今年度ペレットボイラー等設置事業補助金を創設。現時点で1件の申請を受理。次年度も1件の申請見込であり、さらなる民間需要の拡大に継続して取り組む。 木質資源利用見込み 1,200 t/年	継続	エコビレッジ推進課
			8	エコビレッジ住宅ゾーン整備		桜ヶ池周辺エリアのアクションプラン作成に衣替え。「新しい暮らし方の提案」をプランの中に盛り込みその中の住宅という位置づけとなる	令和元年度以前から実施	南砺市エコビレッジ構想を推進するため、エコビレッジ住宅ゾーンにおける官民連携事業の検討を進めている。自然と共生し地域資源を活用しながら、様々な分野が連携し、幸せな暮らし方ができる場を創出する。	継続	エコビレッジ推進課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
②森や里山の活用 と懐かしい暮らし 方の再評価による 集落の活性化	(1) 田舎に おける暮らし 方の再評価		9	再生可能エネルギーの自給自足		地球温暖化対策、地域資源の有効活用による持続可能な循環型社会の形成に向けて、再生可能エネルギーの導入拡大を推進する。	令和元年度以前から実施	【熱】木質燃料の公共施設での安定利用を図る。木質燃料の民間需要の拡大に向け、次の助成事業を実施。ストーブ・ボイラー設置支援、ペレット燃料購入支援、ペレット燃料販路拡大支援、エネルギー用材搬出支援、燃料高騰対策支援 【電気】住宅用太陽光発電設備導入補助金の実施。太陽光、小水力といった地域産電源の市内活用策を検討する。 木質ストーブR5実績：18申請 太陽光発電システムR5実績：13申請	継続	エコビレッジ推進課
			10	ふるさとワーキングホリデー事業		一定期間地域に滞在し、地域の実際の生活や地域での仕事を体験し、交流人口の拡大、移住・定住の促進を図る。	未定	受入れ先となる企業や地域の求人ニーズ、受入体制の状況を調査しながら事業実施について検討を行っている。	当該事業を活用した関係人口の創出に向け、庁内での受入れ体制を構築す	政策推進課
			11	応援市民制度運営事業	◎	南砺を想う市外在住の方に「応援市民」の登録と、地域の困りごとの解決に協力してもらう制度を運営する。	令和元年度以前から実施	応援市民のニーズ調査を踏まえて、定期的な情報発信を行ったり、近隣の大学での募集・応援活動を行った結果、着実に登録者数が増えている。応援活動としては、学生の地域イベントの参加、郷土料理作り体験、木彫刻キャンプへのボランティアなどが行われた。今後は、地域課題の解決に向けた取組みの改善を検討していく。 応援市民数：1,141名（令和5年12月末時点） ※1年間で約100名増加	首都圏での交流イベント等を通じて、応援市民との関係の深化を図り、市内における地域課題の解決に繋がる応援活動を活性化させる。	政策推進課
			12	定住支援事業（転入及び持ち家奨励金）	◎	転入者が市内に住宅を購入した際に奨励金を交付するもの。	令和元年度以前から実施	順調に実施 【令和4年度実績】 転入奨励金（転入者が市内に住宅を購入した際に奨励金を交付するもの）40件 持ち家奨励金（市内居住者の転出抑制対策のため奨励金を交付するもの）49件 申請は前年度の72件から17件増加 令和5年度からは内容を変更し実施している。	継続	南砺で暮らしません課
			13	移住コンシェルジュ事業	◎	首都圏等で行われる移住セミナー、移住フェアに出展するとともに、ふるさと回帰支援センターに常設ブースを設け、移住者の受入れ体制を構築する。	令和元年度以前から実施	順調に実施 【令和4年度実績】 「くらしたい国、富山」事業 オンラインセミナーを含め、フェア、セミナー出展回数は計14回。	継続	南砺で暮らしません課
			14	移住コーディネート事業（地域おこし協力隊サポート、移住体験ツアーの実施、体験ハウスの管理）	◎	地域おこし協力隊の活動サポート、移住体験ハウスの運営管理、移住体験ツアー企画運営等をコーディネートし一元的に実施することで、定住効果を増進させるもの。	令和2年度から実施	順調に実施 【令和4年度実績】 移住体験ツアー2回、フォローツアー2回、オンライン同窓会2回実施。（参加者35名） 体験ハウス使用者は51人。 新城端体験ハウスが稼働開始。2棟となったことで体験ハウス利用人数は前年度より増加。 地域おこし協力隊の活動を支援することで、隊員の活動がスムーズに行うことができた。	継続	南砺で暮らしません課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
		(2) 森や里山の保全と活用	15	お祭り応援隊						主管課調整段階
			16	森林・林業担い手育成業務委託（担い手育成講座の開催）	◎	森林整備を促進するため、森林の利活用を進める技術研修会を開催し、人材の育成を図る。	令和2年度から実施	TOGA森の大学校において森林整備や森林利用に関する研修会を開催。令和5年度は5月から実施しており、2月までを予定している。 【R2～5年度実績】 熟生人数（うち林業就業数）： R2年度9人（3人）、R3年度9人（1人）、R4年度8人（1人）R5年度5人（1人）	継続	林政課
			17	持続可能な森づくり（森林保全）		森林の有する多面的機能を発揮させるため、集約化して計画的な森林整備を行うための「森林経営計画」を基に実施する造林事業に対し補助を行う。	令和元年度以前から実施	県や事業体等と連携し計画的な森林整備を実施している。	継続	林政課
			18	森や里山の資源について6次化推進事業	—		未定	事業体等へのヒアリングを実施	継続	林政課
		(3) 空き家対策とその活用	19	地域空き家対策推進員設置事業（空き家情報の把握、マッチングの実施）		各地域づくり協議会からそれぞれ推薦いただいた空き家等地域対策推進員を核として、地域で一体となった空き家対策に取り組む。	令和元年度以前から実施	研修会等を開催し順調に実施。 推進員の役割として空き家情報（空き家の確認及び相談内容等）を行政（南砺で暮らしません課）に提供いただいております、地域と行政をつなぐ重要な役割を果たしている。	継続	南砺で暮らしません課
			20	空き家予測と地域検討事業	—		未定	—	—	南砺で暮らしません課
			21	空き家対策連絡協議会推進事業		空き家等地域対策推進員と専門家（不動産、建築、司法書士等）による合同推進組織を立ち上げ、所有権・相続問題など困難事例の無料相談会やフォーラムを開催する。	令和元年度以前から実施	順調に実施。 宅建協会や司法書士と連携して相談会を開催し、お互いに補完し合うことで相談者からは好評を得ている。納税通知へのチラシの同封により、空き家バンク登録及び南砺市老朽危険空き家等除却支援事業補助金の認知度が高まり、利用が増加。	継続	南砺で暮らしません課
			22	空き家バンク活用促進事業	◎	空き家バンクに登録された物件について、賃貸、売買、改修等を行う場合に奨励金を交付するもの。	令和元年度以前から実施	順調に実施 【令和4年度実績】 賃貸借・住宅売却促進補助金 46件 登録促進・賃貸住宅・購入住宅改修補助金 35件 賃貸住宅・売買住宅片付け補助金 35件 令和5年度からは内容を変更し実施している。	継続	南砺で暮らしません課
			23	地域内移動サービス実証実験（地域で自主的に取り組む地域内移動サービス）	◎	地域づくり協議会等が主体となり、各地域で送迎サービスを実施するもの。	令和6年度から実施予定	令和6年度から大鋸屋地域で農林水産省の補助事業を受けて、地域づくり協議会主体の送迎サービスを実施予定。	地域づくり協議会主体や、タクシー事業者とも連携した地域内移動サービスの検討を継続していく。	政策推進課
			24	なんバスで暮らそう事業（なんバスシルバーバス事業、とやまロケーションシステム）	◎	なんバスシルバーバス事業： 公共交通の利用促進、高齢者の運転免許自主返納を推進するため、70歳以上の方に市営・民間バス路線の市内区間乗り放題バスを販売する。 とやまロケーションシステム： 県及び県内市町村と連携し、県内全域のバス路線情報をスマホ等で入手できるシステムを構築する。	令和元年度以前から実施	・シルバーバスの発行やとやまロケーションシステムサービスのほか、市営バスの回数券で民間バス路線の市内区間を利用可能としたこと、一部区間を除く全ての路線でバス停以外の場所で降車可能とするなど、市営バスの一層の利便性向上を図っている。 ・令和4年度の3カ月間と令和5年度に井波地域で、市営バスのデマンド方式による実証運行を行った。	市営バス21路線のうち、各地域内を循環する路線については、利用者数が少ないことから、利便性の向上と効率的な運行を図るためデマンド化などの検討を進める。	政策推進課
■社会	①保健医療・介護福祉の充実と連携	(1) 住民の生活を支える公共交通の構築								

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
			25	公共交通のキャッシュレス決済対応		JR城端線や民間・市営バスにキャッシュレス決済を導入するもの。	令和6年度から実施予定	城端線・氷見線鉄道事業再構築計画にキャッシュレス決済の導入が盛り込まれており、令和6年度以降事業着手の予定。 加越能バスが一部キャッシュレス決済を導入済。	城端線については、令和6年度以降、できるだけ早い時期に導入予定	政策推進課
			26	公共交通の自動運転技術導入		市営バス等の公共交通に自動運転技術を導入するもの。	その他（右の欄に状況記入）	ドライバーを必要としないレベル4の自動運転については、国内で関係法令が改正され、車両の商用化が実現すると見込まれる段階に至れば、高齢者等の移動手段確保や運転手不足解消といった課題解消のために導入を検討する必要がある。	国の補助メニューや自動運転技術の向上等の状況を見ながら実施検討する必要があり時期は現時点で未定	政策推進課
		(2) 支え合い 幸せに暮らせる まちの構築	27	学生健診事業（学齢期の肥満対策）	◎	南砺市の健康課題であるメタボについて、その原因である生活習慣病や学齢期からの肥満の予防対策として、市内の中学生（3年生）及び高校生で希望者を対象に健康診査を実施する。併せて、生徒の親世代の健康管理に対する意識の向上に繋げる。	令和2年度から実施	健診を通して健康に対する意識を高めるとともに、令和4年度から受診率向上のため希望者に対して血液型検査を追加実施した。 (中学生3年生から高校3年生までの対象期間に1度でも受診している生徒は約半数)	より多くの生徒に受診してもらえるよう、高校生の自己負担金を1,000円→0円にして実施する。 また、4年間実施のデータからの傾向を学校保健会とも共有し連携していく。	健康課
		28	介護人材雇用型訓練委託事業（対象：介護職員初任者研修修了者）	◎	市内の介護福祉施設への就業・定着を促進するため、介護職員初任者研修修了者を対象とした雇用型訓練を市内の介護関連事業所へ委託する。	令和元年度以前から実施	介護職員の雇用に繋がっている。 令和4年度 受講者数9名（うち就労者8名） 令和5年度 受講者数10名	継続	地域包括ケア課	
		29	フレイル予防事業（フレイルトレーナー養成）	◎	高齢者が互いに身体の虚弱状態について助言しあえる環境を構築するため、地域でフレイルサポーター（元気で意欲のある高齢者）を養成する。	令和元年度以前から実施	累積でフレイルトレーナー3名、フレイルサポーター75名養成終了。 フレイルサポーターを中心に、市内65か所でフレイルチェックを実施し、生活改善の気づきの場を提供している。	継続	地域包括ケア課	
		30	「あなたのからだをナビゲート」事業		目標体重から見直す食事量や、飲み物から摂る糖の目安など健康の維持・向上に役立つ各種ツールや、健康学習に活用できる資料を掲載し、健康づくりにつなげている。	令和元年度以前から実施	平成30年度から「とやま呉西圏域健康ポイント事業」と連携し実施。サイトを利用し、自分で、自分の健診結果データを入力することで、心臓血管病の進行度をチェックすることが可能となった。 ・自分で健診データを入力しチャートを印刷したものをがん検診会場に持参した方には500円の自己負担の割引をインセンティブとして実施しているが、利用できる人とできない人の差があり、悩ましいところではある。地域通貨の構想が出てくれば、そちらへの移行を検討していきたい。	呉西圏域での事業として実施しているが、南砺市以外では、それほど利用されていない。サイト内の健康情報をより有効に生かすためにも、管理会社からレクチャーを受ける場を設け、積極的な活用を促したい。	健康課	
		31	医療救急体制確保		砺波医療圏で急患センターを設置し、平日夜間および休日の救急医療体制を維持している。	令和元年度以前から実施	平日夜間および休日の救急医療体制について、砺波医療圏内の4公的病院（市立砺波総合病院、北陸中央病院、南砺市民病院、公立南砺中央病院）の輪番制により実施している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減少した利用者数・使用料収入が持ち直してきているが、未だコロナ感染拡大以前の状況には回復していないため、構成市分担金も以前の水準に戻っていない。	継続	医療課	

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課	
		(3) 結婚から 妊娠、子育てま での支援	32	地域包括ケアシステムによる自立支 援		地域の支援ニーズとサービス提供主体のマッチ ング等のコーディネート業務を実施することに より、地域における互助の取り組みを推進す る。	令和2年度から実施	第1層協議体で、毎月1回のミーティングを実施。 現在は各地区の地域ヒアリングリストにより、地域 資源の実態を把握、検証して自立支援に向けて検討 している。 マッチングのさらなる実施を進めていく。	継続	地域包括ケア課	
			33	ちよいボランティア							主管課調整段階
			34	あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェク ト (AIP48) 事業	◎	H23から結婚活動支援に取り組み、全国トップ クラスの成果を挙げているものの、未だ婚姻率 が全国平均を大きく下回ることから、引き続き 切れ目のない婚活支援事業を行う。 (内容) 婚活イベント、婚活セミナーの開催		令和元年度以前から実施	これまでの婚活支援事業によって「婚活倶楽部なん と」会員の婚姻数は、毎年度10組以上、市の成婚者 数の1割以上と成果を上げている。また、通算174組 が成婚し、その夫婦から136人以上の子どもが出生し ている。人口割での成婚者数は全国市区町村の中で トップクラスであり、出会いの創出だけではなく成 婚までフォローする南砺モデルが功を奏している。 新規会員の獲得や広く市民に対して婚活事業の周 知のため、市報やチラシの作成などを行い婚活に関 する情報の発信を実施していく。	継続	南砺で暮らしません課
			35	婚活応援団なんとおせっ会プロジェ クト	◎	赤い糸プロジェクト (AIP48) の取組として、 婚活応援団「なんとおせっ会」が、婚活倶楽部 なんとの会員や独身者を対象として実施する出 会いの場の創出イベント・セミナーを支援す る。 (内容) 婚活相談会 (写真お見合い会) の開 催、お見合いの設定		令和元年度以前から実施	順調に実施。 婚活支援事業による成婚者が、新たにおせっ会員と なり、結婚希望者のサポートを行うなど事業の好循 環が生まれ、おせっ会員の新鮮代謝が図られてい る。	継続	南砺で暮らしません課
			36	早期結婚奨励金事業				未定	—	—	南砺で暮らしません課
			37	結婚等意識調査事業	◎	地域づくり協議会単位での婚活支援や跡継ぎ対 策の推進に活用するため、各地域単位で若者を 対象とした意識調査を行うもの。		その他 (右の欄に状況記入)	令和2年度のみ実施。婚活倶楽部なんとの知名度を上 げる必要あり、R6,2月開催予定の、商工企業立地課 主催の (仮) 南砺と繋がるコミュニティ形成事業 (南砺で繋がるU35交流会) との連携を検討。	継続	南砺で暮らしません課
			38	個人番号連携事業「なんとすこやか 親子支援事業」			—	事業終了	令和2年度をもって終了		健康課
			39	妊娠・出産包括支援事業 (南砺市型 「ネウボラ」推進事業)	◎	切れ目のない出産、子育て環境を保つため、以 下の事業を行う。 ①子育て相談支援 ②不妊治療費助成 ③不育症治療費助成 ④産前産後サポート ⑤学童・思春期保健事業		令和元年度以前から実施	妊娠・出産・子育てに関して、切れ目のない支援を 行うとともに、産科医療機関、助産師、こども課等 の関係機関との連携をとり実施している。	継続	健康課
			40	小児医療推進事業	◎	病院事業で実施する小児医療推進事業を支援す るもの。 ○小児医療推進事業 富大附属病院と地域医療支援サテライトセン ターを設置し、医師不足分野の診療を担う (常 勤医2名の派遣)。病児保育室と連携し、乳幼 児や子どもの診療や検診体制を拡充する。		事業終了	3年平均1日あたり受診数1.81件と医療ニーズが低 く、小児外科単体として維持していくのではなく事 業期間中に医師等への研修を通じて蓄積された知 識・情報を活かし外科内で対応を取っていくことが 望ましいと考えられ、令和3年度をもって事業を終 了した。		医療課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
②未来を創る教育・ 次世代の育成	(1)地域の文化や歴史を守り、発信し、継承する		41	子育て応援制度（ひとり親世帯・低所得者層世帯への高校生通学定期券や医療費、入学、卒業祝い金の助成）	◎	ひとり親家庭又は低所得者世帯を対象として、子育て支援を行う。 ①入学・卒業祝い金の支給（入学：小2万、中3万、中卒業：5万） ②高校生通学定期券購入補助（1/2） ③高校生医療費助成	令和2年度から実施	ひとり親家庭又は低所得者世帯を対象として、 ①入学・卒業祝い金の支給（入学：小2万、中3万、中卒業：5万） を実施している。 R5年度から、②高校生通学支援金、③高校生医療費助成をすべての子育て世帯にまで拡充し、支援の充実を図っている。	②高校生通学支援金は、R6年度に継続も含めて見直しを行う。	こども課
			42	なんと！やさしい子育て応援企業認定制度事業	◎	子育てと仕事を両立できる職場環境整備に取り組む企業・事業所にアドバイザーを派遣して取組を支援するとともに、子育て応援企業として認定することで、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組む。	令和元年度以前から実施	R4年度までに64社を認定。 商工企業立地課や南砺で暮らしません課とも連携を図り、応援企業の認定を各種支援の要件とすることにより普及啓発に努めている。	継続	こども課
			43	子育て・親育ち応援事業	◎	子育て・親育ちに必要な意識を身につけてもらうため、子育てに関する講座（パパ講座、もうすぐパパ・ママ講座、祖父母講座等）を開催する。	令和元年度以前から実施	子育て・親育ちに必要な意識を身につけてもらうため、子育てに関する講座（Welcomeあかちゃん講座、パパ・ママ講座、みんなの子育て講座等）を実施している。	令和6年度以降は保健センターと連携して開催予定	こども課
			44	働き方改革推進事業（ワークショップやシンポジウムの開催）	◎	市内事業所を対象に働き方改革推進セミナーを開催し、女性も男性も分け隔てなく働ける職場づくりや働きがいのある職場づくりを推進。女性のキャリアアップ支援セミナーを開催し、女性の活躍推進を図る。	令和2年度から実施	令和5年度、地域・市民を対象に「ジェンダーギャップ解消セミナー」を全3回開催予定。第1回約60名、第2回約60名の参加があり、2・3回は、地域づくり協議会と合同開催としている。	継続	南砺で暮らしません課
		45	官学、官民連携事業（大学生等による地域課題解決に対する活動支援）	◎	地域課題解決に向けた、大学生等の南砺市内における活動を支援する。学生と地域のとの関わりを重視し、支援を行う。	令和元年度以前から実施	応援市民に登録した大学生が地域活動に参加する中で、若者目線での情報発信や改善提案を行う取組を実施。	継続して大学と連携し、若者による地域課題解決につながる活動を支援す	政策推進課	
		46	善徳寺史料調査		県指定文化財「城端別院善徳寺文書」を後世に引き継ぎ、次世代を担う人々の未来に生きる糧とすべく、文書をデジタルデータ化し、さらに全容の解明を目指し解読を行う。	令和2年度から実施	文書のデータ化は99%終了。残り1%は文書の修繕終了後となる。解読は令和5年度で約40%終了予定。引き続き調査を実施している法人への支援を行う。	継続	文化・世界遺産課	
		47	福野夜高祭・曳山行事調査		民俗学的調査に基づく詳細な記録作成を実施し、民俗文化財としての価値を明らかにすることで、貴重な伝統行事の保存と継承を図る。	令和4年度から実施	令和5年度も行事の詳細調査を実施し、来年度以降報告書作成作業にも取り掛かる予定。令和7年度までの4年計画	継続	文化・世界遺産課	
		48	井波伝建選定調査事業		八日町をはじめとした井波地域の古い町並みについて、国の重要伝統的建造物群保存地区選定に向けての詳細調査を行う。	未定	地元の意向がまとまり次第、調査計画を立案予定。	継続	文化・世界遺産課	
		49	ふるさと教育推進事業	◎	児童・生徒のふるさとを大切に思い、誇りを持つ心を育てるため、伝統産業に関する活動や市を県内外に発信する活動など、市への理解を深める事業を行う。	令和元年度以前から実施	各学校において、ねらい達成のための学習の中で、それぞれ特色ある学習を行っており、児童生徒が市への思い、取組について市長への提言として実施している。 地域から市のよさを学ぶ新たな学習にも取組み、南砺市の仕組みや特徴等について理解を深めている。学習の中で郷土のために出来る事を考え、提案も行っている。	令和5年度をもって、市内全ての学校での市長への提言を完了したことから、令和6年度以降は市内小中義務教育学校の児童生徒がESD、ふるさと教育にかかる取組事例発表を一堂に介して行い、他校との情報交換から、気づきや学びを得る機会を設ける。	教育総務課	

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課			
			50	ユネスコ無形文化遺産情報発信事業		「ユネスコ無形文化遺産」に登録された地域に対して、人材育成、普及啓発、調査研究等の取組等について支援し、ユネスコ無形文化遺産を活用した地域活性化を推進する。	令和2年度から実施	令和5年度は城端曳山祭の準備・片付け等祭に関わる人、運営に携わる人への聞き取り調査を実施した。令和6年度以降、報告書作成に取りかかる	継続	文化・世界遺産課			
			51	「五箇山合掌の里」リノベーション事業		リノベーション事業（コテージ棟）の耐熱化改修工事の実施（済）。 ソフト面（経営面）については継続実施中。	その他（右の欄に状況記入）	ソフト面（経営面）は以下のとおり実施中。 ●第2次交流観光まちづくりプランマネジメント会議で議論開始。デジタルの要素も取り入れながら中期ビジョン策定も含めて検討。 ●指定管理者見直し、施設保有方も含め庁舎内で再検討 ●白川村との事業連携模索	ソフト面（経営面） R5年より開始、R6年度以降も継続実施。	交流観光まちづくり課			
			52	五箇山茅場の造成補助事業	◎	民間事業者が取り組む小茅の造成事業に対して、補助金交付による支援を行う。	令和元年度以前から実施	茅場の新規造成は令和4年度で終了し、5年度以降は造成した茅場の整備事業に支援している。	令和4年度で終了	文化・世界遺産課			
		(2) 未来を創る教育の推進			53	子どもの居場所づくり促進事業（多世代交流事業運営支援）	◎	子どもが安心して地域で過ごせる環境の充実に取り組む地域づくり協議会を支援する。 ・多世代交流事業補助金（地域の多世代の方々と交流） ・学習支援事業補助金（子どもたちの学習支援等）	令和2年度から実施	6団体（継続5、新規1）で実施中。（実施団体を随時募集） なお、支援期間を立上げから3年間としており、4年目以降の活動継続（とやまっ子さんさん広場推進事業への移行等）を見据えた取組となるよう、サポートする必要がある。	地域における子どもの安心安全な居場所確保のために継続が必要。国の動向も踏まえて改善を検討していく。	こども課	
					54	子どもの権利擁護、児童虐待防止対策		子どもの権利を保障し、子どもも大人も共に幸せに暮らせるまちづくりを目指す市の基本姿勢を示す「南砺市こどもの権利条例」を制定する。 児童虐待防止・対応マニュアルに基づき、要保護児童対策地域協議会の関係機関と連携し、児童虐待の早期発見、早期対応を図る。	令和2年度から実施	R5年4月に「南砺市こどもの権利条例」が施行されたことを踏まえて、条例の趣旨を広く市民に周知するとともに、条例に定める権利委員会を設置し、市の具体的な取組指針としてアクションプランの策定を進めている。（R6年3月策定予定）	継続	こども課	
					55	学校間をつなぐ遠隔協働学習	◎	山間部及び小規模校で遠隔協働学習システムを用いた合同学習を実施し、児童生徒が多様な考えに触れる機会を増やす。 （対象校：上平小、利賀小、井口小、平中、利賀中、井口中）	令和元年度以前から実施	令和2年度にGIGAスクール構想により児童生徒に1人1台のタブレット端末が配備されたことに伴い、市内全域での遠隔協働学習の実施を行っている。	継続	教育総務課	
					56	外国人児童生徒支援事業	◎	日本語指導が必要な外国籍の児童生徒に対し、外国語支援講師を配置し支援を行う。	令和元年度以前から実施	日本語の支援が必要な児童生徒が在籍する小中学校に外国語支援員を配置している。	継続	教育総務課	
					57	子どもの貧困対策		こども家庭相談室が中心となり、個別の事例について要保護児童対策地域協議会の関係機関等と連携調整を図りながら対応している。	令和2年度から実施	個別の事例について、フードドライブの情報提供や社会福祉協議会と連携し食料配布や家計相談等を実施	継続	こども課	
					58	SDGs 教育プログラム推進事業							主管課調整段階
					59	ESD の推進		ふるさと教育を通して世界遺産の学習や環境・国際交流事業を行い、持続可能な社会を目指し、諸問題に対して自分の事として考え、行動する児童生徒を育成する。	令和元年度以前から実施	福野小学校はユネスコスクールに認定され、環境や国際交流事業等を実施している。上平小学校及び平中学校もユネスコスクールの認定に向けて活動を行っている。	継続	教育総務課	
					60	非認知スキル、課題解決型学習プログラムの導入							主管課調整段階
					61	エンカル消費に対する教育							主管課調整段階
					62	カムバックto なんとプロジェクト							主管課調整段階
					63	ロジカルシンキング促進事業							主管課調整段階

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
		(3) 持続可能な教育基盤の整備	64	(仮称) 井口地域義務教育学校整備事業	◎	R3.4月に井口小学校及び井口中学校が統合して新たに義務教育学校として開校するため、校舎を改修する。 R2～R3 新築部分、R4既存校舎改修、R5小学校解体	令和元年度以前から実施	令和3年4月に開校した「南砺つばき学舎」の校舎整備を令和2年度より令和5年度にかけて実施中である。	令和5年度にて完了予定	教育総務課
			65	ICT機器整備事業（電子黒板機器及び電子黒板用パソコン）	◎	ICT教育整備計画に基づき小中学校に電子黒板や実物投影機等を計画的に導入・更新する。	令和元年度以前から実施	整備計画に基づき、平成26年度から令和3年度までに普通教室、令和3年度および4年度に特別教室の整備を実施した。今後は機器整備に伴う更新計画に基づいた計画的な機器更新を実施していく。	継続	教育総務課
			66	小中一貫校の体制整備		小学校と中学校の9年間を見通した一貫した体系的・継続的な教育活動を実施する。	令和3年度から実施	令和3年度から各中学校区にて9年間を見通した小中一貫教育を実施している。	継続	教育総務課
			67	5Gの利用促進		第5世代通信情報システム（超高速、超低遅延、多数同時接続）の利用。 携帯事業者が全国的にサービス提供する5Gと自営でスポット的に実施するローカル5G（建物内や敷地内など）がある。	未定	令和2年度に（株）TSTがローカル5Gの免許を取得した。ローカル5Gの利用について、（株）TSTと情報共有を図り各課に情報提供を行っている。 令和4年度に中越鉄工株式会社が富山県「ローカル5G活用生産性向上推進事業補助金」を採択を受け、ローカル5Gを活用したシステムを導入し、令和5年度より鉄工現場での、データ通信から作業完了までの活用を開始した。	継続	情報政策課
			68	強靱な情報インフラの整備		自然災害等があっても、いち早く元の状態に回復できるインフラの整備	令和元年度以前から実施	事業継続が出来るようにバックアップルートを確保している。	継続	情報政策課
■経済	①ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進	(1) 地域内経済の循環・自立	69	なんとSDGsポイント制度運営事業	◎	地域課題解決につながる活動を支えるためのインセンティブとして「なんとポイント制度」を実施する。	事業終了	ポイント付与による地域活動への参加促進が、小規模多機能自治の取組へと深化したことを踏まえて、令和3年度末で制度を廃止した。	政策推進課	
			70	ふるさと寄付事業		ふるさと納税による寄附金を募り、寄付に対して返礼品を贈る。 ・ふるさとチョイス ・ふるぽ ・JALふるさと納税 ・ANAのふるさと納税 ・楽天ふるさと納税（R4～） ・ふるなび（R4～） 上記ポータルサイトを利用。 ・ふるさとNOW（R5～） 上記現地決済型端末を導入し、ゴルフ場とスキー場で展開。	令和元年度以前から実施	【実績】 R4実績 3,115件 94,948千円 R5見込 100,000千円 【課題】 ①掲載サイトを増やした際の掲載事業者の伸び悩み ②寄付件数の伸び悩み 【改善策】 ①中間事業者と協力し、事業者への丁寧な説明で理解していただき、販路のひとつとして呼びかけを強化 ②周知の強化。リピーターの拡大強化。南砺市の観光、文化を活かしたサービス返礼品の開拓。 【今後の検討】 中間事業者の一本化 事業者への訪問開拓強化 新規ポータルサイト追加	継続	商工企業立地課
			71	地域おこし協力隊の地域への人材選流の推進事業	◎	地域力の維持・強化のため、担い手となる主に都市部の地域外人材を誘致し、地域活動に協力してもらいながら、最終的には移住・定住へとつなげる。	令和元年度以前から実施	順調に実施。 平地域担当1名、SDGs推進担当1名、南砺幸せ未来基金担当1名、井波プロジェクト担当1名、小規模多機能自治担当1名、上平地域担当1名、利賀地域担当1名の計7名が活動中。	継続	南砺で暮らしません課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
		(再掲) 応援市民制度運営事業	72	地域の困りごと解決事業・副業応援市民プロジェクト	◎	移住・関係人口を創出するサービス「スマウト」を活用し、仕事や住まいのオンラインマッチングや地域の困りごとへの解決に繋げる。また、都市部の副業就業希望者の受け入れサービス「スキルシフト」を活用して、市内企業の取組を支援する。	令和元年度以前から実施	移住・関係人口を創出するサービス「スマウト」において、登録ユーザーが興味を示したプロジェクトから上位にランクインした地域を「SMOUT移住ワード」として発表しており、2023年度上半期市区町村人気ランキングで全国4位となった。	継続 ※スキルシフトについては令和4年度末で終了	南砺で暮らしません課
			73	(仮称) なんと未来創造塾開催事業(地域ビジネス人材育成)	◎	南砺の地場産業の二代目や若手起業家などで意欲のある若手事業者を集め、地域課題に向き合い、魅力ある地域資源や異業種の技術を活かした“新たな事業”にチャレンジする場を創出する場を創出する。	令和2年度から実施	R2:第1期は10名、R3:第2期は9名、R4:第3期は10名、R5:第4期は9名が参加し実施している。	継続	南砺で暮らしません課
			74	(再掲) 応援市民制度運営事業	◎	南砺を想う市外在住の方に「応援市民」の登録と、地域の困りごとへの解決に協力してもらう制度を運営する。	令和元年度以前から実施	応援市民のニーズ調査を踏まえて、定期的な情報発信を行ったり、近隣の大学での募集・応援活動を行った結果、着実に登録者数が増えている。応援活動としては、学生の地域イベントの参加、郷土料理作り体験、木彫刻キャンプへのボランティアなどが行われた。今後は、地域課題の解決に向けた取組みの改善を検討していく。 応援市民数：1,141名(令和5年12月末時点) ※1年間で約100名増加	首都圏での交流イベント等を通じて、応援市民との関係の深化を図り、市内における地域課題の解決に繋がる応援活動を活性化させる。	政策推進課
			75	企業版ふるさと納税の推進		市の地方創生に対し、市外企業からの寄附を募る、(最大で寄附額の9割の税額控除)	令和2年度から実施	中間支援業者の利用や、市とゆかりがある企業に働きかけを行うことで寄附企業が増えている。	継続	政策推進課
			76	地域通貨の導入推進		地域内経済循環とコミュニティの活性化を両輪とした南砺版地域通貨モデルを構築し導入につなげる。	令和2年度から実施	南砺市版地域通貨の導入に向け、システムベンダーや地域金融機関等と協議を進めているが、費用対効果や運営体制の検討に時間を要している。富山県として地域通貨システムの構築を進める動きがあるため、情報共有を図りながら検討を続けていく。	継続	エコブレッジ推進課
			77	南砺版ソーシャルインパクトボンド事業		民間資金の投入を促進しながら成果を達成した事業に関して支払いを行う仕組み。資金を拠出することによって応援団をつくりながらしっかりと成果を出すことを志向することを期待する仕組み。	未定	先進事例の情報収集を進め、南砺市での導入を研究中。	継続	エコブレッジ推進課
			78	若者活躍ネットワーク創設事業	◎	若い世代(高校生)が主体的に事業を企画・実施していくことをきっかけとして、若者のネットワークを再構築し、様々な分野への若者参画を図り、若者の「やりたい!」が叶うまち、なんとの実現を目指す。 高校生に南砺市で青春を十分に謳歌してもらうことで、南砺市への愛郷心を育むことに繋げる。	令和3年度から実施	ボクなんは令和5年度で3年目。令和5年5月23日に新規コアメンバーとして6名が委嘱され、現在15名で活動している。「地域とのつながり」を今年度のテーマとして置き、・4/1ミズベリング出店・5/17活動拠点見学・5/23委嘱式・5/28オリエンテーション、懇親会・6/15燕市まちあそび部オンライン会議・7/9ボクなんハウスでタコパをしよう!・8/11ユカタデダンス・11/23キッズライツDAY なんとGROW TOGETHER・12/23アオハル祭 IN クリスマスマーケット(福野)など地域と連携した活動を行っている。今後、「これから実現したいこと」として、ぼくなんキャラクター「えな」ちゃんの周知、大好きな南砺市キャラクター「なんとくん」のグッズ販売を予定している。	継続	南砺で暮らしません課
		(2) 住民主体による課題解決の促進								

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
②農林業の再生と商 工観光業との連携	(1)次世代に 繋ぐ農林水産業 の推進	(3)SDGsの 普及・啓発	79	事業化促進事業（地域課題解決支援）	◎	人口減少による地域課題を解決するための独自の取り組みを行う地域づくり協議会等に対して、事業への取り組みを促進するための初期費用として補助金を交付する。	その他（右の欄に状況記入）	地域課題解決に向けた取り組みを促進するため、各地域づくり協議会の活動費となる住民自治推進交付金の中の地域事業推進費をメニュー化し、事業化促進事業の対象事業を含むこととして予算立てするため、当面の間は休止する。	未定	南砺で暮らしません課
			80	SDGs推進事業（普及啓発活動の推進）	◎	市内企業や市民がSDGsの理念を理解し、普段の生活の中での気付きや、自分ごととして地域課題の解決や持続可能な社会の形成を実現するための、普及啓発を行う。	令和元年度以前から実施	・SDGsの普及啓発として、出前講座、ブース出展の実施。 ・富山国際大学と連携し現代社会学部1年生向けの地域づくり実習を実施。市内の事業者へ課題等のヒアリングを行いSDGs視点での提案を行っている。 ・となみ青年会議所と連携したSDGs推進企画を継続して実施。令和5年度は「夢や目標を叶えるために大切にすること」をテーマにデジタルパンフレットを作成した。 ・地域課題の解決に向けた個人、企業・団体の取り組みを促進するために、なんとSDGsカフェ（No.81）、なんとSDGs実践ワークショップを開催した。	継続	エコビレッジ推進課
			81	SDGsカフェ		SDGsの各ゴールに関連する様々なテーマで、SDGsと地域について学ぶ場を開催し、自分ごと、地域ごととして行動していくためのきっかけづくりを行う。	令和元年度以前から実施	令和5年度は、3つのテーマでカフェを開催。市内で活動する団体等の話を伺い、課題の共有や参加者同士での交流を行うことで、地域課題への関心や行動のきっかけづくりを行った。	実施内容を検討しながら継続	エコビレッジ推進課
			82	オールなんとSDGsパートナープラットフォーム事業		SDGsを取り入れたまちづくりに賛同し、自分ごととしてSDGsのゴール達成につながる取り組みを市内で実施する企業、団体または個人を「なんとSDGsパートナー」として登録。SDGsの自分ごと化推進に加えて、企業・団体間の連携した取組の促進により、新規事業の創造や地域課題の解決につなげる。	令和3年度から実施	「なんとSDGsパートナー」として、SDGsに取り組む企業・団体・個人を登録しHPへ掲載（令和5年12月末時点で129団体登録）。 令和5年度から大学生等と連携したインタビュー企画を実施し、パートナーの活動内容をより分かりやすく発信することで、SDGs視点での地域での取組促進を図っている。	継続	エコビレッジ推進課
			83	散居村景観保全事業	◎	散居村の屋敷林の枝打ち等を支援することで、代々受け継がれてきた散居景観の保全・育成の取組を進める。	令和元年度以前から実施	適切な屋敷林保全のため、研修会を引き続き実施し事業推進を図る。 R5年度 研修1回開催、枝打ち補助 39地区53件） （R4年度 研修1回開催 枝打ち補助 42地区55件）	継続	農政課
		84	侵入防止柵設置支援補助金		イノシシ等の野生鳥獣による農作物への被害対策として、鋼製侵入防止柵等の設置に対し補助金を交付する。	令和2年度から実施	R5年度 8地区実施 延長3,200m （R4年度 13地区 延長3,650m）	継続	林政課	
		85	クマ生息環境管理事業補助金		ツキノワグマによる人身被害の防止を図るため、放任果樹の伐採を地域で効率的に行う取り組みに対し補助金を交付する。	令和2年度から実施	R5年度 7地区で放任果樹72本が伐採される予定。 （R4年度 4地区33本）	継続	林政課	
		86	新規就農研修支援事業	◎	新規就農後の確実な定着を目的に、就農前の栽培技術及び技能等の習得に係る研修受講に対して支援を行う。	令和元年度以前から実施	農業従事者の高齢化及び後継者不足対策の一環で、今後も新規就農への意欲を後押しする。	継続	農政課	
		87	就農マッチングツアー事業（農業法人等への紹介）	◎	市担い手育成総合支援協議会が開催する「就職希望者に求人をしている農業法人を紹介するツアー」の開催を支援し、市内農業法人の従業員不足解消につなげる。	令和2年度から実施	農業従事者の高齢化及び後継者不足対策の一環で、今後も新規就農者の掘り起こしに努める。	継続	農政課	

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
		(2) 地場産業の支援・活性化	88	(再掲) 森林・林業担い手育成事業 (担い手育成講座の開催)	◎	森林整備を促進するため、森林の利活用を進める技術研修会を開催し、人材の育成を図る。	令和2年度から実施	TOGA森の大学校において森林整備や森林利用に関する研修会を開催。令和5年度は5月から実施しており、2月までを予定している。 【R2～5年度実績】 熟生人数(うち林業就業数)： R2年度9人(3人)、R3年度9人(1人)、R4年度8人(1人) R5年度5人(1人)	継続	林政課
			89	なんと自然給食ものがたり事業	◎	農産物の地産地消を進めるため、小中学校及び保育園でオーガニックを含む地場産食材の活用を推進する。	令和2年度から実施	【R5年度実績】 保育園では有機栽培米おにぎり(6回)や農薬・化学肥料不使用の野菜をおやつ時間に提供(2回) 小・中学校では有機栽培米や農薬・化学肥料不使用の農産物を使用した給食を実施予定(4回)うち1回はフレンチ給食としてフランス料理店「ランソレイエ」オーナーシェフのプロデュースによる献立の給食を、農薬・化学肥料不使用の地場産農産物を活用し実施。 R4年度中に仕込んだ有機大豆を使用した味噌を学校給食で使用。 「なんと自然給食ものがたり」の紹介動画の活用。 児童生徒とその保護者を対象としたアンケートを実施(予定)	継続	農政課
			90	オーガニック農業の推進		間伐材等の樹皮(バーク)を堆肥化させる過程で発生する発酵熱及び発酵ガスを活用した農業の推進。	令和元年度以前から実施	令和元年度堆肥舎を設置し、令和2年度から堆肥舎を活用して実施してきたが、バークの発酵条件や費用面での課題があり、継続した事業の実施が難しく中断している。	中断	エコビレッジ推進課
						オーガニックビレッジ宣言(R5年4月)を契機に、付加価値の高い有機農業への取り組みを加速させ、市ならではの「農」と「食」の魅力を広く発信する。	令和4年度から実施	R5～9年度までの5年計画の中で、四本の柱である「地域づくり」、「人づくり」、「ネットワークづくり」、「機運・仕組みづくり」、それぞれの仕組みを構築し、循環させ、地域の課題である後継者や担い手の育成を図るとともに、市民への有機農業の意識醸成を図る。	継続	農政課
			91	食料産業・6次産業化の推進		6次産業化に取り組む農林漁業者等の所得増大や農山漁村の活性化を図る。	令和元年度以前から実施	R5年度は対象事業なし。農林漁業者の所得増大を図るため、加工、直接販売、サービスなどの6次産業化の取組を支援するものであり、要望等あれば富山県と協議し推進したい。	継続	農政課
92	就活・雇用促進事業(求人活動支援)	◎	市内企業の将来を担う若者の地元就職・定住を促進するため、就職情報サイトや合同企業説明会等の求人活動を行う市内企業に対し、サイト掲載料、出展経費、インターンシップ経費等を支援する。	令和元年度以前から実施	求人活動支援補助金R4実績 10件 943千円 【改善策】 市内中小企業等に就職する若者への奨励金制度や民間アパートの家賃を補助する支援制度などを新たに創設したほか、若者女性採用企業応援プロジェクトとして企業の人材課題解決に向けて取り組むなど、企業の求人活動のみならず人材確保のために幅広く支援する。	令和4年度で終了	商工企業立地課			

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課	
			93	生活困窮者就労準備支援事業		一般就労に向けた準備としての基礎能力の形成のため、就労準備支援プログラムを作成し「日常生活自立支援」「社会生活自立支援」等の支援を包括的に実施する。	令和2年度から実施	マージン圏に事業を委託し実施しているが、事業の利用者がいない状況である。事業対象となりうる困窮者に対し、面談等において事業内容を説明し、利用に繋げるよう努める。	継続	福祉課	
			94	起業家育成支援事業	◎	市内であらたに起業する事業者に、開業費用の一部を助成する。	令和元年度以前から実施	起業家に対する補助があることで、移住を検討する方々へアピールとなる。積極的に起業を支援することで、理解のある市として対外的に示すことが出来る。R5実績5件見込2件	継続	商工企業立地課	
			95	南砺ブランド商品開発支援事業	◎	「南砺の逸品」の価値向上を図るため、販路拡大や首都圏でのテストマーケティングを行うとともに、新たなブランド商品の開発やブラッシュアップを行う。(ECサイト運営費等を含む。) ・なんとの逸品販促支援 ・地域商社機能支援 ・ブランド商品開発支援	令和元年度以前から実施	R3に首都圏テストマーケティングを実施し、商品ブラッシュアップと市場調査を実施。R4には大規模展示会出展し販路拡大を図る。また、R5は第2期事業が始まり、新「南砺の逸品」として整備している。販路拡大事業として通販食品展示会に出展し、5事業所が参加し販路拡大を図った。ブランド商品開発等支援事業補助金については、販路拡大支援事業はビジネスマッチング補助金に移行。	継続	商工企業立地課	
			96	伝統的工芸品後継者育成支援事業	◎	井波彫刻・五箇山和紙などの伝統的工芸品産業の後継者を育成するとともに、先進的な商品開発、販路開拓等の取組を支援する。	令和元年度以前から実施	R3、R4伝統的工芸品購入・再生促進補助金交付、伝統的工芸品産業事業継続支援補助金実施。R5は伝統的工芸品購入キャンペーンとして、購入者に「南砺の逸品」ECサイトで使える電子クーポンを発行し、伝統的工芸品と「南砺の逸品」双方の購入促進を図っている。南砺の未来を担う伝統的工芸品若手職人応援補助金はR5に新規1件あり、R6には新規2件を見込んでいる。再生支援事業補助金はR4は2件申請あり、R5は1件申請。	継続	商工企業立地課	
			97	クリエイティブ産業振興・発信事業 (さくらボ事業推進及びクリエイタープラザ利用促進)	◎	クリエイタープラザの集客を強化し、産業振興・クリエイター育成に取り組む。 ①セミナー等の開催 ②桜クリエイティブ誌発行 ③アートな企業展開催 ④クリエイタープラザ利用促進補助金	令和元年度以前から実施	・R4「南砺の逸品」製作体験プログラムを実施。R5は1メニュー増やして実施。R6は更に伝統的工芸品制作体験メニューを追加して実施予定。 ・クリエイタープラザ入居促進補助金はR6終了。 ・コンベンションビューロー誘致の学会実施。	継続	商工企業立地課	
			98	小規模事業者後継者支援事業	◎	小規模事業者の経営の承継、既存事業の継承又は新たな事業を展開する後継者に対し、改装費等の一部を補助する。	令和元年度以前から実施	R5申請見込1件 課題は制度の周知と申請者の掘り起こし	継続	商工企業立地課	
			99	空き家・空き店舗利用促進事業	◎	空き家・空き店舗を活用して事業に利用する事業者へ、改修経費(事務所改装費、事務所借り上げ料等)の一部を支援する。	令和元年度以前から実施	R5申請6件、申請見込2件 R6は空き家バンクを利用して、空き店舗情報を発信する。	継続	商工企業立地課	
			(3) なんとの 魅力発信	100	観光誘客推進に向けた広域連携事業		(公社)とやま観光推進機構を通じ広域的な誘客促進を図るDMO活動を実施する。	令和元年度以前から実施	北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会や富山県西部地区観光協議会など、広域連携により、効果的な観光誘客に取り組んでいる。 コロナウイルス感染症の影響をみながら、国内外のプロモーション等を実施している。	継続	交流観光まちづくり課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
			101	観光客受入環境整備事業	◎	市内を訪れる観光客に快適な滞在環境を提供するため、観光施設の無線通信環境の改善や電子マネー等の決済システムを導入する事業者に助成する。	令和元年度以前から実施	観光客が快適に旅行できるよう、店舗におけるトイレの洋式化やWiFi整備等に対する支援事業を実施している。	継続	交流観光まちづくり課
			102	外国人観光客受入環境ICT活用事業（AIチャットボット）		インバウンド等の利用を想定したAIチャットボット導入。	令和2年度から実施	インバウンド等が情報収集する際の利便性を高めるため、人工知能を活用したチャットボットを導入している。	継続	交流観光まちづくり課
			103	井波八日町通りWiFi整備		国内外の観光客が多い井波八日町通りへのフリーWiFi整備。	令和2年度から実施	国内外の観光客がフリーWiFiを利用できるように整備した。	令和2年度事業完了	交流観光まちづくり課
			104	なんと！幸せのおすそわけキャンペーン事業	◎	首都圏におけるターゲットを絞ったプロモーションや、金沢市・高山市でのプロモーション、観光コンシェルジュ招聘等を実施し、観光地としての知名度向上、ファン獲得を図る。 (実施主体は「なんと幸せのおすそわけキャンペーン実行委員会」)	令和元年度以前から実施	首都圏等からの誘客に向けた情報発信や魅力づくり、おもてなしの向上に取り組んでいる。 また、北陸新幹線延伸や大阪関西万博等もあることから関西圏からの誘客にも積極的に取り組む。	継続	交流観光まちづくり課
			105	南砺金沢線活用誘客促進事業（路線の一部を観光ルート化）	◎	一日6往復の南砺金沢線のうち、3便を南砺金沢線を城端駅経由にルート変更するとともに、世界遺産バスでも使用できるフリーバスを割引販売することで、金沢市からの誘客を促進する。	令和元年度以前から実施	R2年度から一部便をJR城端駅経由として、観光の利用増を図った。R4年度からはデジタルチケットを導入し更なる利便性の向上を図った。フリーバスの名称を変更し周知に努めるなど、さらに利用促進をすすめる。	継続	交流観光まちづくり課
			106	アニメツーリズム推進事業		南砺市のオリジナルアニメ「恋旅」等を生かした誘客促進。	令和元年度以前から実施	南砺市のオリジナルアニメ「恋旅」等を生かし、アニメを活用した誘客に取り組んでいる。	継続	交流観光まちづくり課
			107	コンベンション支援等事業	◎	市内及び近隣市で開催されたコンベンションを対象とし、参加者が市内での宿泊費の一部を助成する。	令和元年度以前から実施	学会、大会、合宿等を誘致し、交流人口の増大や市内の活性化に取り組んでいる。	継続	交流観光まちづくり課
			108	宿泊施設立地促進助成事業		質の高い宿泊施設を誘致し、市の観光振興及び交流人口の増加、雇用の創出などを図るため、宿泊施設の新規立地・増設・改修工事費等の一部を支援する。	令和2年度から実施	R4実績 0件 【改善策】 R4年度に策定した企業立地戦略では、観光関連産業の誘致を強化することとしており、R5年度から支援の対象として、宿泊業のほか飲食や土産品等販売施設などに拡大している。	継続	商工企業立地課
			109	山村留学定住事業	◎	利賀地域の魅力を伝える短期山村留学を実施する。	令和3年度から実施	平成29年度より利賀地域にて長期留学に向けた短期留学キャンプを実施してきており、令和3年度から1年間の長期留学を実施している。	継続	教育総務課
			110	サインの多言語化						
■基盤	南砺版地域循環共生圏の実装	(1)南砺の士徳文化、支え合いのまちづくり	111	(再掲)ふるさと教育推進事業	◎	児童・生徒のふるさとを大切に思い、誇りを持つ心を育てるため、伝統産業に関する活動や市を県内外に発信する活動など、市への理解を深める事業を行う。	令和元年度以前から実施	各学校において、ねらい達成のための学習の中で、それぞれ特色ある学習を行っており、児童生徒が市への思い、取組について市長への提言として実施している。 地域から市のよさを学ぶ新たな学習にも取組み、南砺市の仕組みや特徴等について理解を深めている。 学習の中で郷土のために出来る事を考え、提案も行っている。	令和5年度をもって、市内全ての学校での市長への提言を完了したことから、令和6年度以降は市内小中義務教育学校の児童生徒がESD、ふるさと教育にかかる取組事例発表を一堂に介して行い、他校との情報交換から、気づきや学びを得る機会を設ける。	教育総務課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
			112	(再掲) SDGs 教育プログラム推進 事業						主管課調整段階
			113	(再掲) ESD の推進		ふるさと教育を通して世界遺産の学習や環境・ 国際交流事業を行い、持続可能な社会を目指 し、諸問題に対して自分の事として考え、行動 する児童生徒を育成する。	令和元年度以前から実施	福野小学校はユネスコスクールに認定され、環境や 国際交流事業等を実施している。上平小学校及び平 中学校もユネスコスクールの認定に向けて活動を 行っている。	継続	教育総務課
			114	(再掲) 非認知スキル、課題解決型 学習プログラムの導入						主管課調整段階
			115	(再掲) エシカル消費に対する教育						主管課調整段階
		(2) 小規模多 機能自治の推進	116	住民自治組織強化事業 (セミナーの 開催)	◎	小規模多機能の手法を用いた住民自治組織は、 地域毎に問題・課題も多く存在し、解決方法も 1つではないことから、先進事例や成功例・失 敗例などを学ぶ機会を創出するため、セミナー を開催する。	令和元年度以前から実施	小規模多機能自治が始まって5年目となり、地域づく り協議会の運営についてはある程度安定感が見えて きている面はあるが、取り組みの活発さの差が指摘 されており、進展が求められる。セミナーを通し て、その都度、改めて小規模多機能自治を理解する 機会は大変重要となっている。	継続	南砺で暮らしません課
			117	(再掲) 地域の困りごと解決事業・ 副業応援市民プロジェクト事業	◎	移住・関係人口を創出するサービス「スマウ ト」を活用し、仕事や住まいのオンラインマッ チングや地域の困りごとの解決に繋げる。ま た、都市部の副業就業希望者の受け入れサー ビス「スキルシフト」を活用して、市内企業の取 組を支援する。	令和元年度以前から実施	移住・関係人口を創出するサービス「スマウト」に おいて、登録ユーザーが興味を示したプロジェクト から上位にランクインした地域を「SMOUT移住ア ワード」として発表しており、2023年度上半期市区 町村人気ランキングで全国4位となった。	継続 ※スキルシフトについ ては令和4年度末で終了	南砺で暮らしません課
			118	住民自治推進交付金 (地域づくり費 + 推進人件費) 事業	◎	小規模多機能自治の手法を用いた住民自治を支 援するため、地域づくり協議会に対する活動費 や地域指導員などの人件費として交付金を交付 する。	令和元年度以前から実施	地域住民のニーズに対応した地域課題解決に向けた 取り組みが、全ての地域づくり協議会で推進される よう、住民自治推進交付金の算定基準の大規模な見 直しを行った。	継続	南砺で暮らしません課
			119	(再掲) 事業化促進事業 (地域課題 解決支援)	◎	人口減少による地域課題を解決するための独自 の取り組みを行う地域づくり協議会等に対し て、事業への取り組みを促進するための初期費 用として補助金を交付する。	その他 (右の欄に状況記入)	地域課題解決に向けた取り組みを促進するため、各 地域づくり協議会の活動費となる住民自治推進交 付金の中の地域事業推進費をメニュー化し、事業化促 進事業の対象事業を含むこととして予算立てするた め、当面の間は休止する。	未定	南砺で暮らしません課
			120	自主財源確保に向けたコミュニティ ビジネス		地域づくり協議会が地域課題解決に向けて、よ り活発かつ自発的・自立的に取り組むを進める ための、自主財源確保につながる収益事業への 取組を支援する。	令和元年度以前から実施	各地域づくり協議会の活動費となる住民自治推進交 付金の中の地域事業推進費をメニュー化し、収益事 業を含む様々な取組を支援する。	継続	南砺で暮らしません課
			121	人材育成		地域間の連携や情報交換の機会を通して、地域 で活躍できる人材の支援と育成に努める。	令和元年度以前から実施	地域活動における男女共同参画やジェンダーギャ ップ解消の意識付けに重点を置いて取り組んでいる。	継続	南砺で暮らしません課
			122	中間支援組織との連携強化		地域づくりの中間支援組織として南砺市が認定 する、なんと未来支援センターと南砺幸せ未来 基金と連携して、地域の課題解決に向けた各種 取組を総合的に支援する、	令和元年度以前から実施	継続して連携して支援する。	継続	南砺で暮らしません課

側面	基本方針	施策	No.	事業名	第二次 総合計画 計画書 記載事業	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	・実施状況や課題、改善策、実施に向けた検討状況 などを記入 ・左欄で「その他」を選んだ場合、その状況を記入	令和6年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・ 継続・改善・縮減・廃止等の 見込み	担当課
		(3) 南砺幸せ 未来基金	123	南砺幸せ未来基金の支援		公益財団法人南砺幸せ未来基金は、南砺に暮らす人々が支え合い、自然と共に持続可能な循環型社会が構築するために地域の知恵と資金で実現できる仕組みづくりを行っている。中間支援組織として「官」と「民」の間に位置し「公」を実現するべく支援を実施する	令和元年度以前から実施	休眠預金活用事業（No.125）を継続して実施するとともに、令和5年度より「未来を創るチャレンジ事業」「市民活動応援事業」「社会貢献事業化プログラム」の3つの新規助成事業を開始した。また、地域課題と地域課題に対する行政等による支援の可視化に取り組んでいる。	継続	エコビレッジ推進課
			124	地域内資金循環システム構築事業	◎	地域経済の循環・自立と、住民主体の課題解決を促進するため、南砺幸せ未来基金とも連携し、電子地域通貨（土徳コイン）、南砺版ソーシャル・インパクトボンドについて調査研究を行い、普及啓発をはかる。	令和2年度から実施	南砺市版地域通貨の導入に向け、システムベンダーや地域金融機関等と協議を進めているが、費用対効果や運営体制の検討に時間を要している。	継続	エコビレッジ推進課
			125	休眠預金の活用		10年以上出し入れのない預金を原資に「子ども及び若者の支援に係る活動」「日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援に関する活動」「地域社会における活力の低下その他の社会的な困難な状況に直面している地域の支援に関する活動」を民間公益活動によって解決すべく一般財団法人日本民間公益活動連携機構が助成するもの。各地で資金分配団体を募集し、採択された資金分配団体が自らの仮説に沿った実行団体を採択し取組む。	令和2年度から実施	2020・2021年度事業は、東近江三方よし基金、うんなんコミュニティ財団、南砺幸せ未来基金が、2022年度事業は七尾みらい基金準備会、南砺幸せ未来基金がコンソーシアムを組み、社会的困難者を支援する取り組みを行う団体への資金助成、伴走支援を行っている。今年度は2020年度事業（4団体）が終了し、2021年度事業（3団体）は継続実施中、2022年度事業として新たに1団体を採択した。コンソーシアムを組む地域同士で学び合いも行いながら、各地域での課題解決に取り組む。	継続	エコビレッジ推進課
			126	クラウドファンディングの活用		—	未定	事業指定寄付プログラムの制度再設計、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用した地域課題解決に取り組む団体への支援を検討している。	継続	エコビレッジ推進課
			127	投融資制度の検討						